

論考

大伴 一人

現代革命と「陣地戦」

グラムシ思想の重要概念

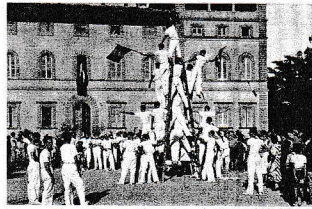
ヘゲモニーをめざす

「陣地戦」は、アントニオ・グラムシの思想を理解するうえで重要な概念です。これはもとも軍事用語である「陣地戦」と「機動戦」をグラムシが政治技術や政治学に援用したもので、陣地戦とは市民社会において支配的な集団への住民の政治的文化的な同意を形成する過程をさします。これをグラムシは「ヘゲモニー」と呼びました。市民社会が成熟した国家は住民にたいする「強制」ではなく、国家にたいする住民の「同意」を形成することによって、その権力を盤石なものにしているのです。

その背後には一連の強固な要塞と砲台が存在した。「東方」とは革命前のツァーリが支配するロシアのことです。ここでは市民社会が未成熟でツァーリの権力基盤は脆弱だった。一方「西方」すなわちヨーロッパでは、「国家が動揺」し、ロップでは、「国家が動揺」しても、「市民社会」が強固な要塞となつてブルジョアジーの支配が揺るがなかったといっています。したがってプロレタリア革命に向かう過程とは、市民社会に「外に方法ない」と言っていました。したがって参加することは大切ですが、左翼による独自の運動も必要です。

そのことをグラムシは『獄中ノート』のなかで次のように述べています。

「東方では、国家がすべてであり、市民社会は原初的であり、の余暇」の意」という社会連動が進められていました(写真は、国家と市民社会とのあいだは非政治化したファシスト党の適正な関係が存在し、国家が員が労働者人民のありとあらゆる堅固な構造があらわされた。国家はただの前線監視にすぎず、ていこうとする政策で、これを



ドーボラ・ヴォーロの活動風景



ミラノの女性バルチザン (1945年)

陣地戦の発展段階

陣地戦は階級情勢の変化に対応してその階級の役割が変化します。陣地戦には特定の形式はありません。それは住民の階級意識、闘争の経験、支配階級の対応によって決まるのです。

陣地戦の発展段階を便宜的に区別するとすれば、次の4段階に大別することができます。

1. 初期の段階
2. 中期の段階
3. 機動戦を含んだ二重権力状態
4. 陣地戦から社会建設へと向かう段階

この段階で陣地戦は消滅していく。現在の日本における陣地戦の例としてすぐに思い浮かぶのが「沖繩独立」という主張が影響力を持ち始めているのは、端的に権力問題が浮上していることを示しています。それは「中期の段階」から「機動戦を含んだ二重権力状態」への移行期に入ろうとしている、沖繩にせよ、それに比べると、これまで外の国内の状況は圧倒的に立ち後れていると言わざるを得ません。

です。それは民主主義が、ブルジョア的な性格からプロレタリア的な性格へと変化していく過程です。その中には国家権力の奪取と新たな国家の形成という問題をほらんでいます。グラムシの陣地戦論はマルクスやレーニンの「コミューン」論にしっかりと踏まられています。彼はマルクスやレーニンの「限界」を乗り越えようとしたのではなく、彼の「コミューン」論を陣地戦論として深化し、プロレタリア独裁の思想を発展させようとしたのです。

単純化していえば革命党は、グラムシのいう機動戦に対応している。機動戦とは武装闘争などの正面戦のことです。革命党は労働者人民にたいする革命闘争の指導と、その経験を蓄積し共産主義理論を研鑽するといった二つの任務を持っています。そのため革命党の組織には、厳選された職業革命家と責任の体系としての中央集権制が不可欠です。また軍隊的な指揮命令系統の確立も必要です。

革命の主体は誰か

しかし一方で、革命党の構成員はすべて平等です。国家権力との関係では本質的に非公然、非合法の組織のなかでプロレタリア民主主義を徹するために、たえず現場の党員と中央指導部との交通がはかれ、十分な意思疎通をもとめて意志統一がなされていることが必要です。そのためには党の政治綱領や厳格な組織規律が必要となり、しかししつじつとした組織は、次の三つの理由からスターリニズムに変遷する危険性を持っています。

革命党と陣地戦

陣地戦とはソビエトあるいは「コミューン」を形成するための闘争です。それはプロレタリア国家権力を打倒するために暴力という手段を使うことです。二つは、革命党の構成員はプロレタリア社会で生れ、その教育を受けた存在であることです。三つは、革命党は共産主義の共同体ではないということです。それは自由、平等、自発性、が政治的組織的軍事的に制限された特殊な共同体です。革命に勝利すれば「コミューン」の運動の中に「眠り込め」を目的意識的におこなわなければならないのです。スターリニズムに陥らないためには、革命党は、陣地戦において労働者人民の自治組織である「コミューン」の関係を正しく持ち、自らの階級の役割を明確にして、あくまで革命の主体は、労働者人民の「コミューン」にあることを忘れてはならないのです。

闘争案内

- 安倍9条改憲NO！全国市民アクション 9・8キック・オフ集会
 - とき：9月8日(金) 午後6時半～8時半
 - ところ：中野ZEROホール(JR中央線中野駅南口下車、徒歩5分)
 - 主催：安倍9条改憲NO！全国市民アクション実行委員会
- 監視カメラで逮捕される!? 電子情報社会の捜査活動とプライバシー
 - とき：9月9日(土) 午後1時半～4時半
 - ところ：大阪弁護士会館2階ホール
 - 主催：大阪弁護士会
- 東京オリビックと市民監視
 - 講師：鶴岡哲さん(橋本学教員)
 - とき：9月10日(日) 午後2時
 - ところ：文京区アカデミー芝台、レクリエーションホールB
 - 主催：盗聴法廃止ネットワーク、共通番号いらないネット／秘密保護法廃止へ！実行委員会
- 「高校無償化」裁判東京判決大集会
 - とき：9月13日(水) 午後6時半
 - ところ：日本教育会館1ツ橋ホール
 - 主催：東京地裁判決 午後2時
 - 傍聴者は午後1時15分集合
- 共謀罪は廃止できる！9・15大集会
 - とき：9月15日(金) 午後6時半
 - ところ：東京・日比谷野外音楽堂
 - 主催：共謀罪廃止のための連絡会
- 安倍の改憲策動と「教育勅語」教育は何をもたらすか？高作正博さん講演会
 - とき：9月17日(日) 午後2時
 - ところ：エルおおさか南館734
 - 主催：二日の丸・君が代」強制反対・不起立処分を撤回させる大阪ネットワーク
- ともに生きる未来を！さよなら原発 さよなら戦争全国集会
 - とき：9月18日(月)休
 - 午後0時半～開会さよなら原発ライブ@野村スーパ
 - 午後3時 テマ出光
 - ところ：代々木公園日地区
 - 主催：「さよなら原発」千万署名、市民の会
 - 協力：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会
- 戦争法強行採決から2年 戦争法、共謀罪の廃止と安倍内閣退陣を求める9・19国会前大集会
 - とき：9月19日(火) 午後6時半
 - ところ：国会議事堂正門前
 - 主催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

おわりと訂正

本紙前号3面「憲法カフェで楽しく学ぶ」の記事で弘川欣絵弁護士が「憲法」96条では「国民の過半数の賛成が必要」と発言したかのよう

本紙前号1面、最下段左から13行目の若狭町議会議員のお名前に誤りがありました。(正) 北原武道さん (誤) 北原武路さん おわびして訂正します。

郵便振替 口座番号 009707091512268 加入者名 前進社関西支社

郵送 〒570-0000 大阪府流川区東三国 6-23-16 前進社関西支社

夏期特別カンパにご協力をお願いします